

午前10時02分

○委員長（出村 勝彦） 皆さん、おはようございます。

開会前ですが、小野沢委員が所用のため欠席いたしますので、お知らせいたします。

午前10時02分開議

○委員長（出村 勝彦） それでは、ただいまから北海道新幹線新函館駅（仮称）開業に関する調査特別委員会を開会いたします。

まず、本日の議題の確認ですが、お手元に配付のとおり進めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） 異議がありませんので、そのように進めさせていただきます。

それでは本日は、前回の委員会でお話をいたしましたとおり、今後の調査の進め方について御協議をいただきたいと思います。それでは、各会派から今後の進め方についての案がございましたら、御発言をお願いいたします。

○松宮 健治委員 ここにも出てるんですけども、うちの会派として一番大事なのはやはりアクセスの問題、新函館駅と現函館駅間のアクセスの問題が市民になかなか周知をされていないで、やはりそこら辺、目に見えないというか、報道等も少ないように思いますので、やはりそこら辺はきちんとやっていかないと、市民の理解は得られないと思いますので。工藤市長が、並行在来線に対してゴーサインを出したという背景には、やはり、出したんだけども、それに対してアクセスの問題がきちんとしていれば、そんなにそんな批判はないだろうと私どもも思っておりますので、そこら辺のことをまずは精力的にやったほうがいいと思いますし、場合によっては、アクセスの問題、要するに乗り換えですね、新幹線と在来線への乗り換えをスムーズに行くということが一番大事かなと思っておりますので、場合によっては、そういうところをきちんと見て学んでくることも必要じゃないかと、うちの会派の意見でございます。

○福島 恭二委員 私どものほうも、公明党さんの言われたことにつきると思いますけれども、もう一つは、函館市としてかねてより、こういった書物、新幹線で未来をつくるまちづくり構想という冊子と、その後、これに基づいてつくられた北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプランというのがあるんですよ。これについて、やはりこの進捗状況、これは私どもも議論はしてませんけれども、一応こういう案が示されて、了解をして、これで取り組まれているものというふうに認識してきているものですから、これが現時点では、このアクションプランがどの程度進められているのか、進んでいるのか、こういうことを調査・研究しながら、これを完成させるための取り組みも必要ではないかなと、こう思っていますので、これらの進捗状況を確かめたいなと思っておりますので、あわせてよろしくお願いたいと。

○本間 勝美委員 私も、今の松宮委員、福島委員が言われたとおり、まずアクセスなんですけれども、

函館市民の中では、新函館駅ができた場合、現函館駅に特急列車が来るのかどうかという、結構質問もあるんですね。そういうことから、現函館―新函館駅間のアクセス問題ということをもっと明らかにしていくべきかなというふうに思っています。それで、現行は函館から札幌まで特急列車に乗ると、函館から出発して、札幌行きは七飯駅から今度右側に、藤城線というんですかね、を回って行って、逆に今度函館に帰ってくる時は、仁山周りということで戻ってきます。そういう関係がどうなるのかということもあまり報道ではされてないみたいなので、その辺も含めて明らかにして、あとは電化ですよ。開業までもう3年と迫ってきた段階で、まだ電化の工事のスケジュール等々がまだあまり伝えられていませんので、その辺も含めて調査する必要があるのではないかなと思っています。それと、アクションプランに関係してくるのかなと思うんですけれども、今回企画部の中にそういった総合的な交通網を考える担当のセクションがつくられていると思うんですけれども、その辺の状況がどうなっているのかということを確認もしていきたいなと思っております。あと観光振興もやはり非常に大切で、広域観光といっても、道南だけじゃなくて、やはり青森県ですよ、下北半島を含む青森県全体との広域観光も大変重要になってきますので、そちらのほうの関係の調査・研究もこの特別委員会で行っていくべきではないかなと思っております。以上です。

○**浜野 幸子委員** ここに書かれてます資料にかかわっては、やはりうちの会派もこの気持ちであります。工藤市長が、多くの意見を聞いた上とはいえ、新幹線を北斗市ってこのアクセスに関して、まだ多くの市民はあまり納得しないという状況は、まあ身近にいる多くの人からのお話、また新聞等で、ただそれを知ってるということだけなんです。やはりこのアクセスということが今回一番、我々市民にとっては大きな課題になるのではないかなと思っておりますので、このアクセスに関してできるだけ具体的な面も含めて調査していただければと思います。

○**委員長（出村 勝彦）** 他にあと、いいですか。

今お聞きしたところ、それぞれ各会派の御意見がございました。特に新駅から現駅のアクセスの問題、それから新幹線をつくる未来の函館としてのアクションプランを取り上げていったらということと、それから観光、広域観光振興、担当理事者側のセクションの問題等々ありましたが、そこで正副委員長からの提案ですが、まず観光を始めとする地域産業などの振興を図り、地域の発展のために必要な事項として、官民が一体となって策定した、福島委員言われる北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプランについて、このアクションプランは議会にも配付されておりますが、理事者から現在の進捗状況の説明を受けて、その中で本委員会の調査項目(1)から(4)と照らし合わせながら、この具体的調査・研究を進めてまいりたいと思っておりますが、その辺についてはどうでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**委員長（出村 勝彦）** 確認の意味で。今、浜野委員、それから福島委員、松宮委員、本間委員等々の発言も十二分に配慮しながら進めてまいりたいというふうに思っております。そのように確認させていただいてよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○**委員長（出村 勝彦）** なお、その他にまた出てきましたら、その都度御意見も徴しながら、これら

に符号するような形で進めてまいりたいというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

説明資料等について理事者と調整したいと思いますので、次回の委員会の日程については後日改めてまた御相談したいというふうに思っております。きょうは最初の委員会です。段取りということで今お聞きした線で進めてまいりたいと。

また、当委員会の調査のめどについてですが、北海道新幹線の新函館開業は平成27年度末の予定となっておりますので、平成26年度中には委員会として取りまとめをしたいというふうに正副で考えています。このような進め方にしたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

そのように確認したいと思います。

それでは、最後にその他につきまして、各委員から御発言ありましたらおっしゃっていただければ。その他、ありますか。

○**浜野 幸子委員** その他っても、まだ議事が進行しない限り、どういう流れで、アクションプランの計画をよく聞いて、参考にしながら、やはり進める方向が、ちょっとまだここではどうしてほしいというところはちょっと難しいと思います。

○**委員長(出村 勝彦)** 浜野委員言われるとおりにと思いますが、一応今までの進め方と、それから最後にこれ不足してその他あったらということでお聞きしたわけです。それでは、本日のところはこれで、次回からこれに沿って、先ほど申し上げた線に沿って進めてまいりたいということで終わりたいと思いますが、よろしいですか。(「きょうはこれで、何もやらないの」と福島委員) きょうはこれで、やらないの。理事者側の段取りもありますし。(「あと、まだこれ手元にいてないと思うので」と日角委員) まだいてない人もいるし、中も。(「これを配付してもらおうとかな」と福島委員) 今、手元にありますか。

○**議会事務局議事調査課長(伊与部 隆)** 済みません。お疲れ様でございます。今、先ほど御意見も出ましたけれども、このアクションプランのほうもお渡ししますが、私どものほうで今御用意しております。それと、新幹線で未来をつくるまちづくり構想というのも今ございましたので、それもお渡ししたいと思っております。それで、今委員の皆様、そして委員長のほうからもありましたとおり、理事者のほうとも、これについての説明を受けるということで、今ここでなりましたので、その中でも特にアクセス関係ということについて注目を浴びているということで事務局としても理解しましたので、ちょっと理事者のほうとも、次の日程等も含めまして調整させていただいて、そこでまた委員長のほうにも御相談したいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。以上です。

○**委員長(出村 勝彦)** それから、次回以降になりますけどね、当委員会は行動する委員会として、いろいろJRさんのほうにも顔も出して、今までの流れも、函館市の立場も御説明したいし、そういうことと、それからあと他の状況等も、今後の進め方の過程において、より調査・研究を深めてまいりたいというようなこともございますので、その辺も一つ頭に入れておいてほしいと、かように思います。

○**福島 恭二委員** できればね、この新幹線の仮称函館、新駅では函館になってるけども、これもできれば仮称をとりたいという思いもあるんだけど、ともあれ、その関係する北斗、七飯のこの両市町

にはすでにもう特別委員会ができて活動しているわけですよ。だから、一人、函館だけが、極めて重要な課題を抱えていながらも、特別委員会が今日まで設置されずして来た。これはやはり我々議会の姿勢の問題だと思うんですよ。そういう点では、今回ようやくと言っていいかどうか、決まったんだけど、設置されましたけどもね、したがって、この三者でやはり共同で行動することもあると思うんですよ。だから、北斗市とは、このネーミングの問題で、それぞれ立場が違うから、主張はありますけども、そういうことをそれなりにお互いに理解しながら、尊重しながら行動はしてもらうけれども、最終的にはJRさんが決めるということですから、このネーミングの問題についてはね。それはそれとしておきながらも、やはり連携して行動をしていくことも必要だと思うんで、そういったこともぜひ、場面場面ではできるようなことを考えていただきたいなというふうに思っているんですよ。だから、そんなことで、当然、過日決定された、先ほど本間委員からも言われた電化の問題についても、何としてもこれ実現させなければならぬわけですから、約束はきちんと果たしてもらおう。こういう使命も我々に、約束を果たさせる使命もあると思うんでね、そんなことなどを含めて取り組んでいくべきだと思います。ぜひ一つそのことも念頭に入れながら対応をしてほしいなと。

○委員長（出村 勝彦） 今、福島委員から言われたことは、このネーミング等については、もう各委員においては十二分に函館市と、議会としての意向、市民の意向としても新函館ということは御承知置きかと思いますが、これらについてもよく北斗市さんにも理解を得るような、私は努力が必要だと思うんですよ。別にアクションを起こさないで、穏便に話し合う。やはり地域の発展というものは、当函館市だけでなく北斗市においても七飯町においても共通のやはり理念で進んでいくと。そうすると、ネーミング云々なんて自ずから、今までの長い歴史的なあれがありますので、理解もいただけるんでないかなというふうに思いますが、その辺等々もまた話し合ってもいかなきゃならんというふうに思っています。その他でさっき出るかなと思ったが、まあわかってることだと思って、言わなかったのではないかなと僕は認識しておりますが。正副として、今言ったようなことも、きちんとしたあれで把握をして、JRに対してはよく御理解いただけるように進めていただきたいというふうに思っております。

それでは、きょうはこの程度でよろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、次回に精力的に進めてまいりたいと思いますので、本日はこれを持ちまして散会いたします。

御苦労様でございました。

午前10時19分散会